

女性の本と
女性の為の
情報をお知
らせする
ウイメンズ
ブック
友の会会報

ウイメンズ ブックス 第7号

1983年

6月20日発行

(年会費 1,500円)

Women's Books

ウイメンズ ブックストア

発行所 有限会社 松 香 堂 書 店

602 京都市上京区下立売通西洞院西入る

電話 075-441-6905

振替貯金口座 京都8-7950

ウイメンズ ブック 目録 (7)

このリストの書籍を、御希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申込み下さい。書籍代は送料共でお振込み下さいますようお願い致します。

ご注文の本の定価の合計額に、右の表の送料を合せてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

1,000円以下の場合	300円
1,001円～3,000円の場合	400円
3,001円～5,000円の場合	500円
5,001円～10,000円の場合	600円
10,001円以上の場合	700円

(各項末尾の番号はウイメンズブックストアの書籍整理番号です)

結婚・家庭・家族 (50音順)

【あ】

「あゝ、単身赴任」 読売新聞婦人部編 講談社 1983年
680円

現代サラリーマンが避けられない単身赴任。子どもの非行、家庭崩壊、家計のピンチ、健康の不安など単身赴任がもたらす予期せぬ出来事にメスを入れ、その知恵と対策と生き方をアドバイス。 [1685]

「愛と結婚の知的冒険」 石川弘義 海竜社 1979年
800円

二人の絆を深める夫婦文化の心理学 愛と結婚の未来学 夫婦文化のすすめ 人間としての女の性 新しいセクシュアリティを求めて (目次より) [1592]

「アイヌの婚姻」 瀬川清子 未来社 1972年 1000円
昭和26年頃成年期及び婚姻をめぐる習俗、それに対する心の掟を年老いたアイヌから聞き歩いた筆記からなる。 [7007]

「明るい家庭教育」 秋元正明 学文社 1981年
1200円

見なおそう家庭教育 みのりのある家庭教育 古典から生き方を学ぶ 国際社会と日本人 (目次より) [1559]

「あなたもシングル？」 千野境子編著 ユック舎
1983年 1300円

年々増えるシングル。彼女たちは何を考え、どう生きているか—10人の手記・落合恵子氏、原百代氏のインタヴューを盛り込みシングルの生き方を描き出す。 [1629]

「アメリカの家族」 NHK取材班 日本放送出版協会
1983年 1200円

離婚・再婚の激増、独身主義、女性の自立、未婚の母などアメリカの家族は激しく変化している。新しい家族像を求める人々の生き方や考え方をレポートする。 [1674]

「アメリカの家族—ボストン法学見聞記」 米倉明
有斐閣 1982年 3300円
ハーバード大に留学した著者が、新鮮な観察眼と深い洞察力で“アメリカの家族と法”の最新事情をレポート。 [1621]

「アメリカの家族・日本の家族」 増田光吉
日本放送協会 1969年 700円
家族社会学者が自己の見聞と調査を基に日米両国の家庭のしくみを解説。興味深い比較文化論となっている。 [1517]

「ある結婚の風景」 イングマール・ベルイマン
ヘラルド出版 1982年 1300円
現代の結婚の核心に迫るベルイマン監督の記念碑的な傑作。 [1579]

【い】

「家と現代家族」 山根常男・森岡清美 培風館
1976年 3900円
第2次大戦を境に大きく変動してきた日本の家族制度は家から現代家族へと変化している。それは論理においてどのように把握されるか。配偶者選択、しつけ、権威構造、隠居慣行、親族組織をテーマに選び調査分析されている。 [1522]

「家と女性の歴史」 大竹秀男 弘文堂 1977年 1300円
“家”の思想がどのようにして女性に対する抑圧と差別を強化し、定着していったかを各時代の法制的な家族秩序の歴史に生活慣習・家庭生活などの視点を加えながらわが国特有の“家”の意識の源泉を探る。 [1644]

「いま家庭で—アメリカの女性の自立とその子どもたちの立場」 M. J. ベイン 青木久男訳 多賀出版
1980年 1600円

アメリカの生活と習慣がどれほど急テンポで変わっても、アメリカ人はその家庭・子供・親類・老人と深くかかわりつづけている。そう簡単に家庭を放棄してはならない。家庭と公共の価値を両者共存させることを考えようと言。 [1539]

【お】

「夫と妻の心理学—豊かな結婚生活のために」
近藤裕 創元社 1981年 980円
アメリカで夫婦問題専門のカウンセラーとして活躍している著者が夫と妻の様々なつきあい方を明快に解説し、日米夫婦のあり方の違いについても比較している。
〔1535〕

「男の家政学—なぜ女の家政>になったか」
飯塚信雄 理想社 1977年 1500円
17世紀に男性によって書かれた家政書（オーストリアの田舎の殿様の書）の興味深い内容を紹介しながら、男女の距離がいまほど離れていなかった時代の家庭生活の知恵をいかに現代にいかすか助言する。
〔1625〕

「オープン・マリッジ—新しい結婚生活」
ニーナ・オニール、ジョージ・オニール、坂根徹夫・徳田喜三郎共訳 河出書房新社 1975年 980円
オープン・マリッジとはルーズな男女関係の結婚のことではない。夫婦の個性的な成長をはばんできた閉鎖型結婚から、人間的に男女が成長できるオープン・マリッジを説く。鋳型にはめられた理想的結婚像を打ち破る。
〔1515〕

「女—城のあるじ」 西台美智雄 理想社 1981年 980円
第一回「ベターホーム」読者賞受賞著者の優しい澄んだ眼と深い教養がかもし出すユニークな家庭論。〔1589〕

「女・家族—シリーズ いまを生きる7」 ユック舎刊 批評社 1982年 950円
父親不在の家族 家庭裁判所の窓口から ルポルタージュ 家族を生きる女たち 座談会 家族の抱えるもの
〔1612〕

「女ひとり生きる—独身差別の中を生きぬく知恵」
谷嘉代子編 ミネルヴァ書房 1982年 1200円
第6号 目録「女性論」p.4に既出 〔0674〕

【か】

「解体家族」 小室加代子 批評社 1983年 1500円
ゆれる家族、家庭なき家族といわれている今日、家族は本当に死期に真面しているのだろうか。家族と家庭の再生の道をさぐる新しい視点、それが“解体家族”の発想であるという。
〔1699〕

「改訂家族法論Ⅰ」 青山道夫 法律文化社 1971年 1500円
家族法を中心とする民法の歴史 現行家族法の成立 親族・婚姻・親子・後見・扶養（目次より） 〔3314〕

「改訂家族法論Ⅱ」 青山道夫 法律文化社 1971年 1300円
相続 遺言 遺留分（目次より） 〔1634〕

「核家族時代」 松原治郎 日本放送協会 1969年 700円
マイホーム主義・子どもの教育・老後の暮らし等日本の家庭生活はつきつきに新しい問題に直面する。すべてこれらは家族関係の核化現象が原因である。
〔1516〕

「家事・育児を分担する男たち」 福岡・女性と職業研究会編 現代書館 1982年 1400円
家事・育児を日常的にかなり多く分担している夫たち33名にアンケート調査と面接を行い、アメリカ、イギリスの夫の事例を紹介しこれからの家事・育児のあり方を考える。
〔1630〕

「家事の社会学」 アン・オークレー 佐藤和枝・渡辺潤訳 松籟社 1980年 1900円
既存の社会学における性差別主義への批判。40人の専業主婦を対象として行った詳細な家事労働調査を分析し、主婦は潜在的に革命的な存在なのだと説く。〔1534〕

「家政学の焦点と将来への展望」 S.F. リビート H.I. ブラウン 松山美保子訳 家政教育社 1971年 1000円
大学の家政学部の家政学原論や概論の入門書として書かれたもの。変貌する社会における家族生活 家政学教育における教養および専門教育の役割 〔1552〕

「家族—政策と法1 総論」 福島正夫編 東京大学出版会 1975年 2400円
家族政策そのものを位置づけ、さらに本シリーズ全体の中軸をなす家族政策と家族法の基本問題を理論的に分析し続巻の研究の展開の総論としている。〔1603〕

「家族—政策と法2 現代日本の家族政策」 福島正夫編 東京大学出版会 1976年 2400円
家族生活における個人の尊厳と両性の平等をうたう日本国憲法下の家族の現実を多面的に分析する。〔1604〕

「家族—政策と法3 戦後日本家族の動向」 福島正夫編 東京大学出版会 1977年 2800円
高度経済成長とそれに伴う社会構造の変化により、急激な変化をとげた戦後日本の家族関係の現実と家族法現象の動向を検討。〔1605〕

「家族—政策と法4 欧米資本主義国」 福島正夫編 東京大学出版会 1981年 3800円
欧米資本主義諸国の家族法、家族政策の多様性、共通性を考察し、それを通じて日本の家族法、家族政策の特色を明らかにする。〔1606〕

「家族—政策と法5 社会主義国・新興国」 福島正夫編 東京大学出版会 1976年 2800円
社会主義の家族法原理と諸政策について、ソ連・中国・東欧の現実を取り上げ、さらにアジア諸国をみる。
〔1607〕

「家族—政策と法6 近代日本の家族政策と法」 福島正夫編 東京大学出版会 未刊 価未定
戦後家族の抱えている問題の歴史的前提を明らかにするという観点から、戦前の家族制度の形成と展開を国家の統治政策の中に位置づける。（予定） 〔1608〕

「家族—政策と法7 近代日本の家族観」 福島正夫編 東京大学出版会 1976年 2400円
日本の家の本質を分析し啓蒙思想家や庶民の家族像をさぐり、家が法的制度としてどのように整備されたかをみる。〔1609〕

「家族—文学の中の親子関係」 岡田英弘・小堀桂一郎編 PHP研究所 1981年 1400円
母と子—神話と人類学的解釈（ギリシャ） 母・妻・妾—孝の社会の葛藤（中国） 父と子—永遠に拒絶しあう構造（ドイツ） 大家族—近代化のなかでの崩壊（フランス）等 〔1591〕

「家族関係」 森本武也 大明堂 1978年 1800円
第一章 家族 第二章 家族周期論 第三章 家族計画論（目次より） 〔1537〕

「家族関係論」 後藤平吉・関谷耕一・関谷風子 ミネルヴァ書房 1975年 1800円
第一章 家族関係—その社会的側面 第二章 家族関係—その法的側面 第三章 家族関係—その具体的側面 〔1524〕

- 「家族関係を考える」 河合雄雄 講談社 1980年 420円
日本社会の特質を踏まえつつ母・父・子の深層の関係を追求しわれわれが自立した人間として個性的に生きる場としての家族のあり方を考える。 [1684]
- 「家族・国籍・社会保障」 小川政亮 勁草書房 1964年 3000円
国の生存権保障と家族制度—生活保護法と国民年金法 親族扶養をめぐる生活保護行政の実態 世帯概念の成立と機能 沖縄における社会保障の諸問題 困窮外国人の扶助(目次より) [1561]
- 「家族国家観の人類学」 伊藤幹治 ミネルヴァ書房 1982年 1600円
家や同族・祖先崇拜等を手がかりにして、日本の社会に深く根ざしている家族国家観の社会的基盤を探る。 [1619]
- 「家族史研究1 家族史研究の課題」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1980年 2200円
家族にかんするはじめての専門研究誌 日本の家族史研究によせて 近代市民社会の婚姻と法 現代家族法の研究課題等 [1692]
- 「家族史研究2 日本古代家族と女性」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1980年 2200円
日本古代家族史研究 古代籍帳からみた氏と家族 古代女性史に関する問題 日本古代の家族形態と女性の地位 [1693]
- 「家族史研究3 日本近世における家の形成と展開」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1981年 2400円
徳川將軍家の相続制度 封建的小農民経営の分立期における家族形態 近世の村における家格制支配と本家と分家関係 [1694]
- 「家族史研究4 日本における近代家族への胎動」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1981年 2400円
日本近代胎動期の家族法 明治期における世帯概念の登場過程 国勢調査による家族の動態分析 [1695]
- 「家族史研究5 ヨーロッパ近代家族」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1982年 2400円
フランス近代の家族と法 近代イギリスの家族と世帯 イタリア近代の家族法 アメリカ近代における妻の財産 [1696]
- 「家族史研究6 家族と社会諸科学」
家族史研究編集委員会編 大月書店 1982年 2600円
座談会—家族と社会諸科学 討議資料—日本の家族の特質について現代家族をどのようにとらえるか 社会学における家族研究 経済学と家族 [1697]
- 「家族・私有財産、および国家の起源」 エンゲルス 村井康男・村田陽一訳 大月書店 1954年 350円
第二章に家族について述べている [1551]
- 「家族心理学入門1 一夫婦の危機」 日上泰輔編 大日本図書 1976年 600円
性格の相違による葛藤・性の不調和 財産をめぐる争い、姑のからむ不和 離婚をめぐる問題など夫婦間の葛藤の心理をさぐり、その解決への道を示唆する。 [1531]
- 「家族心理学入門2 一親子の危機」 郷古英男編 大日本図書 1976年 600円
親子関係、母と子の葛藤・父と子の葛藤、実子殺し、実親殺し、離婚と子どもの問題など [1532]

- 「家族心理学入門3 一きょうだい、老人の危機」 森武夫編 大日本図書 1976年 600円
きょうだい間の愛情をめぐる争い、財産分与をめぐる争い、家庭の老人問題、嫁姑の紛争、舅と嫁、姑と婿の性の問題など [1533]
- 「家族ってなんだろう」 藤代たけし・洋子 第三文明社 1978年 680円
子供とは親になにかを考えさせ、親自身を導いてくれる存在であるような気がする一親になること、親であること家族とは何か?夫婦が語り合う家族論。 [1628]
- 「<家族>ってなんだろう」 ますのきよし 現代書館 1981年 1500円
「現代子育て考シリーズ全五巻」[2015-2019]の編集委員である著者の家族論。男を女に近づける方向での男女平等こそ生命生産を尊重する道に通じる。男も女も育児時間をノという男性側からの子育て論、家族論は興味深く、一読の価値あり。 [1638]
- 「家族と婚姻の社会学」 アンドル・ミシェル 有地享訳 法律文化社 1978年 2800円
北アメリカ及びヨーロッパにおける家族研究の現在の動向 古典理論—モルガンとエンゲルス デュルケムとモース 現代の諸理論 婚姻と家族—社会・人口統計学的諸相(目次より) [1580]
- 「家族と人間—複数の母たちをめぐる」 河野信子 武田桂三郎 三一書房 1977年 1400円
性と家族覚え書 家族を問う 現代都市の家族制度等 “制度と人間”の姉妹篇 [1518]
- 「家族とは何か」 青井和夫 講談社 1974年 420円
日本人とイエ 日本的国民性を生み出したもの 動物生態学からみた家族発生 しつけと社会化 家族の権力構造(目次より) [1519]
- 「家族動態の理論」 C. C. ハリス 正岡寛司・藤見純子訳 未来社 1978年 3000円
家族社会学の入門書・教科書的な本である [1597]
- 「家族の構造—社会人類学的分析」 中根千枝 東京大学出版会 1970年 3800円
個別研究—インド村落における家族の実態 インドにおける大家族的集団の実態 ナヤール母系大家族制の崩壊について(目次より) [1525]
- 「家族の社会学」 飯田哲也 ミネルヴァ書房 1976年 2000円
家族の歴史的考察 現代家族社会学批判 史的唯物論をめぐる理論的諸問題 私有財産と家族の変化(目次より) [1526]
- 「家族の文化構造」 川本彰 講談社 1978年 390円
家族の本質—血と性に結ばれた共同体 日本の家族と国家—家族国家への愛着と抵抗 日本と西欧の家族 日本の家族と近代化(目次より) [1527]
- 「家族になるもの この指とまれ」 桐島洋子 文藝春秋 1983年 1000円
思いがけない結婚で新しい家族を迎えたマザー・グースと三匹の子豚に何が起ったか、子供だけが家族だとは思わない。生涯親しくつき合っていく友達なら皆家族と同じ。家族になるものこの指とまれという感じの開かれた家庭を提言する。 [1664]
- 「家族崩壊の社会心理学」 伊藤安二編 敬文堂 1979年 2800円
家族崩壊の現象と原因 離婚と家族 いわゆる性格相違による離婚 家族崩壊と勤労青少年 家族崩壊と少年非行 家族崩壊と老人(目次より) [1529]

「家族法読本」 中川淳 法律文化社 1981年 1300円
 家族法の入門書 結婚・親子・養子・離婚・死亡と相続について解り易く解説。 [3312]

「家族問題と家族法Ⅰ 家族」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 全巻の総論となすべき巻で、明治以後の日本の家族形態・思想・法の発展の特質を近代社会のそのあり方と対比しつつ究明し将来を展望。 [1676]

「家族問題と家族法Ⅱ 結婚」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 近代の一夫一婦制とその諸問題がどんな社会統制やイデオロギーの制約の下に発展してきたか。現代日本の婚姻法・結婚現象に含まれる問題点は何か。 [1677]

「家族問題と家族法Ⅲ 離婚」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 現代日本の離婚問題の特質を、近代社会の離婚のあり方と比較しつつ社会経済的背景、家族集団との関連の下に究明し、今後の発展方向を検討。 [1678]

「家族問題と家族法Ⅳ 親子」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 近代民主主義的親子関係の基本理念と歴史的な性格とに対比しつつ、現代日本の親子関係の特質とその思想的・法律的構造を究明し、今後の方向を検討。 [1679]

「家族問題と家族法Ⅴ 扶養」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 労働力の維持再生産ということを基として、近代社会の家族扶養の果してきた役割と現代日本の家族法・社会保障制度の特質を究明し、将来を展望。 [1680]

「家族問題と家族法Ⅵ 相続」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 近代的相続制発達の社会経済的背景を明らかにしつつ現代日本の相続制度とその当面する諸問題の性質を究明して、今後の発展方向を展望。 [1681]

「家族問題と家族法Ⅶ 家事裁判」 中川善之助・
 青山道夫・福島正夫 酒井書店 1975年 2600円
 近代的家事裁判制度の成立と意義を社会的関連の下に明らかにしつつ日本の家庭裁判所とその当面する諸問題を究明し、あわせて戸籍制度の特質を批判する。 [1682]

「家族役割の研究」 上子武次 ミネルヴァ書房
 1979年 5500円
 家族役割の理論的研究 役割理論の家族研究 家族役割の実証的研究(目次より) [1543]

「家族を中心とした人間関係」 中根千枝 講談社
 1977年 320円
 タテ社会論を提唱した著者が、広い視野から日本をはじめ諸社会の家族を社会人類学的に位置づけ問題の所在を明らかにしている。日本の家族の人間関係論としても興味深い。 [1530]

「家庭科・男子にもノ」 家庭科の男女共修をすすめる
 会編 ドメス出版 1982年 1500円
 いまの家庭科教育をあらゆる角度からとらえる。いま、世界では。いま、日本では。総理府は。文部省は。教科書、マスコミ、学校では。 [1635]

「家庭科教育史」 常見育男 光生館 1972年 4500円
 江戸時代の家庭科教育一裁縫教育を中心として 明治時代の家庭科教育 理科的家事科時代の家庭科教育 戦時体制下の家庭科教育 新しい家庭科時代の家庭科教育(目次より) [1546]

「家庭科でなにをどう教えるかー小学校の授業」
 飯野こう 家政教育社 1979年 1300円
 小学校教育の現場での実践を通して書かれたこの論文は月刊「家庭科教育」に連載されたもの。子供の側に立ってくふうを重ねた教材を創り出している。 [1557]

「家庭ってなに一親のための教育学①」 丸岡秀子・
 丸木政臣編 ダイアモンド社 1979年 1200円
 危ないノ子どもたちは今一上田融 家庭って何一樋口恵子 家庭と学校教育一三好京三 家庭の中での手伝い・労働一丸岡秀子(目次より) [1636]

「家庭と女性一つくられたマイホームからの脱出」
 藤井治枝編著 現代婦人問題研究会労働教育センター
 1980年 1300円
 自立への道を求めて 家庭とは、仕事とは これからの家庭と女性の課題 外国女性の生活から等 [1562]

「家庭の構造一男と女の対立から協調へ」
 国際女性学会編 P H P 研究所 1981年 1000円
 第6号 目録「女性論」 p. 4に既出 [0580]

「家庭の裁判 夫婦」 田村五郎 日本評論社 1965年
 1400円
 親族法関係の判例をわかりやすく解説。家庭紛争にあらわれた人間模様を裁判官が法律家の目でいかにとらえているか正確に記述し、また著者の学者としての反応を客観的に紹介されている。 [3318]

「家庭のない家族の時代」 小此木啓吾 ABC出版
 1983年 980円
 積極的に新しい家族のありかたを模索。同じ屋根の下で暮らす家族たちの心も生活も昔とは違ってしまった現代の家庭。 家族精神医学の立場からわれわれに家族問題の悩みに大きなヒントを与えてくれる。 [1615]

「家庭の甦りのために一ホームドラマ編」 佐藤忠男
 筑摩書房 1978年 1400円
 雑誌「展望」に連載されたホームドラマ論をまとめたもの。 映画・テレビにおけるホームドラマを考察している。大衆文化の表現の中に家の意味をさぐる。 [1536]

「家庭はどうかわる一現代生活の中の“家庭学”提唱」
 生活科学調査会編 ドメス出版 1965年 1200円
 急激な社会変化の中で家庭がどのような構造変化をしているか。従来の家政学が現代家庭の諸問題に立ち向う理論的、実践的な力になり得ないことから新しい家庭学を提唱。豊富な調査、データで“生活の科学”シリーズの一冊として執筆されている。 [1547]

「家庭問題への提言」 アン・ランダーズ 生月雅子訳
 家政教育社 1978年 980円
 著者アン・ランダーズはアメリカで23年間身の上相談の名解答者として著名なコラムニストである。この身の上相談の名解答集の中にアメリカ人の善意と良識をみることが出来る。 [1553]

「完全なる結婚」 T. H. ヴァン・デ・ヴェルデ
 安田一郎訳 河出書房新社 1982年 580円
 産婦人科医の立場から書かれた結婚入門書。性のテクニックを洗練し、完全なものにすること自体が目的ではなく、それを通じて肉体の融合と魂の融合をはかること。マリッジ・マニュアルの古典的名著として今なお世界中で読まれているベスト・セラー。 [1636]

【き】

「消えたエプロンールポ父子家庭」 細川公夫・小笠原信之他 大月書店 1981年 1300円
ある日突然妻がいなくなる。男は子育てと仕事に疲れ、子どもは愛にゆきまどう。急増する父子家庭。高度成長がもたらした家族の危機を北海道新聞記者たちが追うヒューマン・ドキュメント。 [1550]

「近代家族」 北村達彦 大明堂 1955年 750円
近代家族の意義と周期 近代家族の機能 近代家族の葛藤 近代家族と社会組織 (目次より) [1538]

「近代日本の家族観・明治篇」 有地享 弘文堂 1977年 2800円
伝統的“いえ”観念と近代的家族観の交錯 家制度の形成期における家族観 他 [1521]

「近代文学における家の構造—その社会学的考察」 川本彰 社会思想社 1600円 1973年 [1702]

【け】

「結婚」 橋田壽賀子 主婦の友社 1982年 980円
離婚した母と四人の未婚の娘たちがおりなす人間模様。橋田ドラマ最新の話題作。 [1660]

「結婚革命—パートナーになること」 カール・ロジャーズ サイマル出版 1982年 1500円
性と結婚をめぐるアメリカの革命的状況をレポート。心理療法の権威ロジャーズ博士は真のパートナーシップとは何であるかを教えてくれる。同棲生活・結婚・離婚・再婚・異人種の結婚などを生々しくレポート。 [1586]

「結婚と離婚—婚姻法を語る」 宮井忠夫 大蔵省印刷局 1980年 900円
家族法の中の結婚と離婚をとり上げ、法律の話が気楽に読めるようにまとめられている。結婚記念日はいつ—第739条 旧姓××は結婚のあかし—第750条 夫の給料はだれのもの—第762条 [1643]

「結婚の深層—ユング心理学選書」 A.G. グレイグ 樋口和彦・武田憲道訳 創元社 1982年 1300円
結婚は幸福への道ではなく、伴侶同志対決しつつ歩む救済への道、即ち個性化の過程であると説く。著者はユング派の代表的分析家である。 [1569]

「結婚の心理」 国分康孝 福村出版 1200円
出会いから離婚まで、結婚をめぐる様々な問題に心理学的立場から明解に答える結婚ガイドブック。 [1700]

「結婚の向こう側—その愛にふみ切っているか」 駒尺喜美 主婦と生活社 1981年 880円
するのがあたり前となっている結婚とはなにか? 女の手でその本質をさぐる。終章に“ある結婚の風景” [1579] イングマル・ベルイマン著をとり上げ、ここに出てくる数組の夫婦を分析しているが、結婚の本質にせまり、興味深い。 [1598]

「結婚・離婚に成功する秘訣—知らない損 夫と妻の法律」 麻生利勝 光文社 1982年 600円
結婚・離婚について人生哲学を語りながら離婚すべきか否かに悩んでいる人のために知っておくべき基本的法律問題を裁判例をおりませ解説。 [1631]

「結婚・離婚・扶養の法律知識」 村崎満 育英堂 1981年 1800円
前東京家庭裁判所判事が長年の経験と豊富な資料によって解説。 [3321]

「結婚も仕事もしたいあなたに」 木元教子 大和書房 1981年 890円
第6号 目録“女性論” p.5 に既出 [1574]

「現代家族の生態」 四方壽雄編 ミネルヴァ書房 1983年 1800円
社会学的な視点で、現代日本の夫婦や女性の生活実態を明らかにし、家族の本質を問う。家族の特質、家族の生活空間 夫婦の役割と葛藤他 [1639]

「現代家庭教育論」 藤井治枝 ドメス出版 1974年 1200円
家庭教育の歴史的推移 現代家庭の実態と問題点 これからの家庭教育を考える (目次より) [1654]

「現代の結婚—一日米の比較」 R.O. ブラッド 田村健二 培風館 1978年 2500円
現代日本の結婚及び夫婦関係の実態を社会学的に調査・分析。それとアメリカ・デトロイトと比較。 [1577]

「現代日本人の結婚1—仲人・親子・夫婦」 竹内裕 大和書房 1979年 1200円
ジャーナリスト出身の著者は仲人連盟理事長である。アマチュア仲人役やその両親、プロの結婚相談業の人々のために書かれたもの。結婚問題での幅広い現代社会学。 [1649]

「現代日本人の結婚2—長男との縁談」 上田朝一 大和書房 1979年 1200円
圧倒的な長男長女時代が迫りつつある。長男をめぐる両家と仲人の知的対応のアドバイス。男の親の立場・あり方を考える。 [1650]

「現代日本人の結婚3—長女との縁談」 藤野好太朗 大和書房 1979年 1200円
高齢化時代の女の一生はどうなる? 長男長女時代の女の親の立場と心理を広い視野でユニークに描く。 [1651]

「現代日本人の結婚4—セレモニー考」 竹田裕 大和書房 1979年 1200円
見合い、結納、結婚式、これに関与する両家、仲人、媒酌人などの群像を折りまぜながら現代知識人の心理を描く異色礼法心得帳。 [1652]

「現代日本人の結婚5—離婚・再婚・未再婚」 佐々木鉄心 大和書房 1979年 1200円
現代夫婦は平均60年間もの長期間婚姻生活を続けなければならない。新しい道徳倫理観を探る。 [1653]

「現代日本の家族問題」 山手茂 亜紀書房 1972年 950円
“現代日本の婦人問題”の姉妹篇 [1548]

「現代日本の主婦」 国際女性学会編 日本放送協会 1980年 650円
専業主婦の悩み、仕事をもつ主婦の葛藤 老後問題など日本の主婦の現状を多角的に捉える。 [1501]

「現代の家庭と福祉」 一番ヶ瀬康子 ドメス出版 1970年 650円
不安のなかの家庭と福祉 こどもの権利と保育 現代のしつけ論・親子論 社会に開く福祉への目等 [1675]

【こ】

「講座家族1 家族の歴史」 青山道夫・有地享・江守五夫他 弘文堂 1973年 3500円
1章 家族の起源 2章近代以前の家族 3章 近代の家族 4章現代の家族 (目次より) [1665]

- 「講座家族2 家族の構造と機能」 青山道夫・有地享・江守五夫他 弘文堂 1973年 3500円
1章 家族の諸形態 2章 家族の機能とその変化 3章 家族内の権威と役割 4章 家族内の人間関係(目次より) [1666]
- 「講座家族3 婚姻の成立」 青山道夫・有地享・江守五夫 弘文堂 1973年 3500円
1章 婚姻の起源と諸形態 2章 婚姻の社会統制 3章 婚姻成立の方式 4章 婚姻思想の展開 5章 日本の婚姻習俗(目次より) [1667]
- 「講座家族4 婚姻の解消」 青山道夫・有地享・江守五夫 弘文堂 1973年 3500円
1章 近代以前の離婚 2章 近代離婚法の変遷 3章 社会主義社会の離婚法 4章 日本の離婚と離婚法 5章 日本の離婚の実態(目次より) [1668]
- 「講座家族5 相続と継承」 青山道夫・有地享・江守五夫 弘文堂 1973年 3500円
一章 原始社会における相続と継承 二章 相続法の歴史 四章 日本における相続・継承の慣行(目次より) [1669]
- 「講座家族6 家族・親族・同族」 青山道夫・有地享・江守五夫他 弘文堂 1973年 3500円
一章 原始血縁共同体の親族構造 二章 血縁共同体の諸形態 三章 親族の範囲 四章 家連合の諸形態(目次より) [1670]
- 「講座家族7 家族問題と社会保障」 青山道夫・有地享・江守五夫 弘文堂 1973年 3500円
一章 家族生活の動態 二章 生活周期と生活問題 三章 現代の家族問題 四章 家族と扶養 五章 家族の変動と社会保障(目次より) [1671]
- 「講座家族8 家族観の系譜索引」 青山道夫・有地享・江守五夫 弘文堂 1973年 3800円
一章 日本の家の観念 二章 国家主義と家イデオロギ- 三章 市民的家族観の形成 四章 戦後における家族観の変容 五章 西欧社会の家族観 六章 東洋社会の家族観(目次より) [1672]
- 「国際結婚」 ヤンソン由実子 PHP研究所 1981年 980円
国際結婚の現場からのレポート。国際結婚の内側から外国人と女一偏見の歴史 権利の差別一制度面から見た国際結婚排外主義(目次より) [1578]
- 「国際結婚終着駅」 馬場恭子 講談社 1982年 980円
ニューヨーク在住のジャーナリストの著者は国際結婚の破局と異郷の大都会での息子の養育という苦難の体験を赤裸々に語る。 [1690]
- 「子捨て夫捨てのすすめ」 笹野貞子 情報センター出版局 1979年 780円
専業主婦はプロフェッショナルたるべし。頼る妻から頼られる妻へ変身しよう。ヒューマニズムは自立の条件である。 [1555]
- 「戸籍」 佐藤文明 現代書館 1982年 950円
イラスト写真入りで表現した“見る思想書”シリーズの1つ。戸籍制度について 私生児差別をなくすために…の視点で編集されている。 [1626]
- 「子どもからの自立」 伊藤雅子 未来社 1975年 1000円
母と子の自立への拠点に一公民館保育室の意味するもの女と子ども一子どもをあずけること、あずかること(目次より) [1510]
- 「子供が書いた離婚の本一親の離婚で不幸になったりはない」 エリック・ローフス編 円より子訳 コンパニオン出版 1982年 1300円
アメリカ ポストン 地区に住む親が離婚した子供たち(11才~14才)が書いたもの。つらく悲しいことだが、より強い人間になった一と子どもたちはいつている。 [1599]
- 「婚姻法の近代化一アジアの現代家族法」 黒木三郎 勁草書房 1966年 2200円
近代婚姻法のイデオロギ-と構造、アジア社会と婚姻法の近代化、日本における婚姻法の近代化と婚姻の成立。 [3320]
- 「婚姻の原理」 森本和夫 現代思潮社 1971年 1800円
20人の高名な思想家の結婚に関する論文を集めたアンソロジーである。 [1616]
- 【さ】
- 「3LDKの家族学」 宮脇檀 グロビュー社 1982年 1000円
核家族化の中で、住まいに、家族に今、何が起きているか。テキストのない現代家庭のライフスタイルの確立を考える新しい家庭論 [1622]
- 【し】
- 「資本主義・家族・個人生活」 エリ・ザレツキィ グループ7221訳 亜紀書房 1980年 1500円
第6号 目録“女性論” p.5に既出 [0447]
- 「写真婚の妻たち一カナダ移住女性生活史」 真壁智子 未来社 1983年 1200円
カナダ在住の著者が今世紀はじめ一枚の写真とアメリカへのあこがれを胸に移民の花嫁として太平洋をこえていった明治の女たちを尋ねた貴重な生活史の記録。 [1688]
- 「主婦からの自立」 武田京子 汐文社 1981年 1200円
女が主婦であることの問題は女たちにとってばかりでなく男も含めて人間が人間らしく生きていくうえでの大問題だとする著者の主婦論。武田氏は第三次主婦論争の火ぶたを切った。「主婦論争を読むII」 [0689]参照 [1504]
- 「主婦が歩きだすとき」 高橋ますみ BOC出版 1980年 1000円
主婦として、ひとりの女として、実生活の重みを受けとめながら本音で語る。著者は“あごら”の会員。 [1507]
- 「主婦が輝くとき」 富士谷あつ子 霞々堂 1979年 950円
主婦はしあわせなのか 主婦論ニッポン事情 主婦って何 等の主婦論 [1503]
- 「主婦が賢く働くガイドブック」 マザーリング編集部編 1982年 800円
賢い主婦は自分で仕事をつくるのがうまい 賢い主婦は仕事と家庭の両立がうまい 賢い主婦は生きがいをお金にかえるのがうまい 賢い主婦は稼いだお金の生かし方がうまい(目次より) [1632]

「主婦が就業するときお茶の間からの出発のために」
藤原房子 転載社 1979年 1300円
機会があったらぜひ職業をと考えている主婦のために72
職種84人へのインタビューレポートからなる就職案内書。
〔1512〕

「主婦症候群」 円より子 文化出版局 1982年
950円

ニコニコ離婚講座の主宰者である著者が主婦たちの実態
を探る。“主婦であること”と“社会における女の役割”
との葛藤が主婦症候群となってあらわれる。〔1623〕

「主婦とおんな」 国立市公民館市民大学ゼミナール編
未来社 1973年 1200円
国立市公民館市民大学ゼミナールの記録 〔1509〕

「主夫と生活」 マイク・マグレディ 伊丹十三訳
学陽書房 1983年 1200円

40才で売れっ子のコラムニストが突然仕事を辞めて家庭
に入り“主婦”ならぬ“主夫”になる。育ち盛りの三人
のこどもをかかえて、進んで役割交換に応じた男が綴る
物語。主夫体験によって初めて、お互いが相手の身にな
れる発見の物語。〔1687〕

「主婦の人生論」 柴田悦子 新日本出版社 1982年
520円

新しい主婦像を考える 民主的な家庭づくり 子どもの
自立と子どもからの自立 家庭の人間関係(目次より)
〔1641〕

「主婦のための女性問題入門1—女の体と心・結婚」

俵萌子 吉武輝子 河野貴代美 教育史料出版会
1981年 1200円

朝日カルチャーセンターでの講座より収録。主婦にとっ
て自立とは 夫婦とは何か。女のからだと心の結びつ
き等。〔1502〕

「主婦のための女性問題入門2—共働き離婚友だち」

佐藤洋子 教育史料出版会 1981年 1200円

共働き 離婚はこわいか 夫の再教育 男ともだち・女
ともだち 血縁から地縁・女縁へ 〔0657〕

「主婦のための女性問題入門3—子育て子離れ老後」

樋口恵子 武田京子・永畑道子 中島通子
教育史料出版会 1981年 1200円 〔0658〕

「主婦ブルース—女の役割とは」 目黒依子 筑摩書房
1980年 850円

今、女が主婦であることは何か。主婦を通して探る女性
論。〔1505〕

「主婦論争を読むⅠ」 上野千鶴子編 勁草書房

1982年 1900円

第6号 目録“女性論” p. 5 に既出 〔0688〕

「主婦論争を読むⅡ」 上野千鶴子編 勁草書房

1982年 1900円

第6号 目録“女性論” p. 5 に既出 〔0689〕

「女性の自立と家政学」 高橋春子編 法律文化社
1981年 2000円

“女性の自立と家政学研究会”のメンバーが家政学はこの
ままでよいのかという疑問のもとに共同執筆した新しい
家政学をめざす論文集。女子教育の歴史 家族・家事
労働論 現代社会と生活等。〔1541〕

「シングルズ—脱結婚時代の生き方」

H. シュライバー 西義之訳 TBSブリタニカ
1978年 1200円

第6号 目録“女性論” p. 7 に既出 〔0522〕

「真実なる結婚」 TH・ボヴェー 松村克己訳

ヨルダン社 1975年 980円

ひとは結婚生活によって初めて本当の人間になるという
視点から書かれたもの。人間学の中心的課題である結婚
を捉える。セックスとエロスと愛 安心感とは結婚生活の
織り成すもの等。〔1520〕

【す】

「スウェーデンの実験—人間社会はどこへいくのか」

竹崎致 講談社 1981年 420円

第6号 目録“女性論” p. 8 に既出 〔0693〕

「すばらしい結婚—トータルジョイ」

マラベル・モーガン 板橋好枝訳 講談社
1978年 800円

1973年無名の主婦の書いたささやかな本“トータル・ウ
ーマン”はアメリカのベストセラーになる。この本はウ
ーマン・リブから痛烈な攻撃や抗議を受ける。幸福な結
婚生活など一度もこの目でみることなく大きくなった—
という著者が、心をこめて送る結婚実践論。〔1549〕

【せ】

「性と婚姻のきしみ」 大井 正 福村出版 1980年
1500円

哲学者の憐れな結婚 女王たちの売春 邪淫の思想史
性の美学入門 単婚思想の源(目次より) 〔1663〕

「世界の離婚—その風土と動向」

菊地幸子 湯沢彦彦他 有斐閣 1979年 550円

世界の先進諸国では、離婚が急増している。各国に固有
の文化や宗教に根ざした性愛観・結婚観の差異、離婚後
の子どもの帰属・財産分配などに触れるなど興味深く描
かれた異色の比較文化論。〔1584〕

【そ】

「その結婚をする前に」 小池真理子 東京白川書院
900円

新進のライターが送る結婚入門書。不確かな自分史から
の脱皮 あなたは結婚に何を求めるか 乾いてしまった
生殖器だけの関係 文化人たちの愚論を斬る 死んだ結
婚よりも生きた結婚へ等。〔1575〕

【た】

「台所症候群」 桂戴作 サンマーク出版 1983年
980円

台所に立つと吐き気がする。家事をやる気が全然しない。
夫の帰りが遅いと喘息発作が起きる—心のよりどころを
失った主婦が陥る現代病に心身医学の専門家がメスを入
れ、人生80年時代の夫婦のあり方を考える。〔1686〕

「男女共学の 中学家庭科—主体的学習をめざす実践記
録」 榎田真澄 家政教育社 1980年 1500円
中学校における男女共学家庭科の実践記録。〔1558〕

「男女共修の家庭一般」 佐藤美枝子 家政教育社
1981年 2000円

4単位男女共修の実践記録。月刊「家政科教育」の教材
研究欄に2年間にわたって書かれた実践記録。〔1556〕

【つ】

「妻たちの思秋期」 斉藤茂男編 共同通信社 1982年
1100円

地方新聞38紙に連載され絶賛のルポ。妻たちのため息、
うめき声が聞える。都市中流家庭の中高年の妻の実態を
とらえる。〔1613〕

「妻たちの復讐—離婚から結婚を考える」 駒尺喜美編
すずさわ書店 1980年 1200円

男たちよ、女の叫びに耳を傾けよ。妻たちの状況 離婚
から結婚を考える インタビュー“女にとって結婚とは”
(目次より) [1571]

「妻と夫の社会史」 マルチース・セガレース
片岡幸彦訳 新評論 1983年 2800円
19~20世紀の中期にいたるフランス社会の妻と夫との間
の労働と役割の実像を描く。 [1614]

「妻の座—弁護士生活30年からのアドバイス」
下光軍二 潮文社 1979年 780円
婦人科弁護士と言われて30年間男と女の終ることのない
愛憎劇にかかわり、女は常に被害者であると痛感。法律
への無知によって、不幸な人生を送る女性はいわゆる多
い。豊富な体験からアドバイスする。 [1611]

「妻の地位と離婚法」 島津一郎 有斐閣 1974年
800円

戦後25年にわたる家族法の変遷をふまえ、近年における
性差別撤廃の動きや、結婚、離婚に対する内外の様々な
新しい考え方にふれつつ、家族法における妻の地位と離
婚にまつわる問題点を多角的に解明する。 [3324]

「妻の本—賢く美しく生きるために」 白石浩一
三天書房 1983年 980円
夫との賢いつきあい方 自分自身の賢い生き方 マスコ
ミで活躍中の著者が、赤裸々な妻の告白を分析して解答
する新賢妻のすすめ [1658]

【と】

「ドイツ婦人の家庭学」 八木あき子 新潮社 1983年
980円

自国経済の原動力といわれるドイツ女性の生活の知恵
456項。あなたの家庭を国際レベルにコントロールする
ドイツ式暮らしの手帳。 [1673]

「ドキュメント家庭崩壊」 岩川隆 コンパニオン出版
1982年 1500円

家庭内殺人、校内殺人、集団蒸発などを取材して家庭が
崩壊していく実態を鋭く描く。著者は崩壊しなければな
らないような家庭は崩壊すればいいとさえ思う。個と個
の共同の努力によって新しい家庭が生まれる。 [1600]

「独身のすべて」 G. モーコ 寺内礼・小杉恵子訳
勁草書房 1979年 1300円
フロイド理論にもとづきながら独身の問題を総合的に分
析し、これからの結婚をどう考えるかを解明する。多数
の衝撃的な分析例や、わが国でもよく知られている作家
の分析例もあり興味深い。 [1648]

「閉ざされた扉のかけで—家族間の愛と暴力」
M. ストロース 小中陽太郎訳 新評論
1981年 1800円

ここで紹介された研究内容は、家庭内の暴力の全体像、
相互性を明らかにしている。日本では家庭内暴力という
と子から親であるが、ここでは親から子、夫婦間、兄弟
間のすべての暴力をとり上げている。 [1601]

「都市と主婦たち—神戸市婦人団体協議会のあゆみ」
毎日新聞神戸支局編 毎日新聞社 1977年 920円
第6号 目録“女性論” p. 9に既出 [0498]

【な】

「なぜ結婚するのだろうか」 朝比奈紀子 東京白川書院
1981年 900円
日本エディタースクールでジャーナリストを目指して文
章修業中のライターが結婚論。結婚が愛情の決算となり
得るか、安易に結婚しすぎはしないか 妻はていつい
女中兼娼婦か等。 [1627]

【に】

「日本家庭史と教育」 福島政雄 酒井書店 1975年
1800円
第一章 神代巻に反映せる家の理想 第二章 上代家庭
の諸相 第三章 奈良平安時代の家庭 第十章 武士道
と家庭教育 第十一章 徳川時代三儒者の家庭他(目次
より) [1656]

—女性のための—

最新刊案内

—1983年1月~5月発刊—

- 0696 「イギリス小説の女性たち」 鷲見八重子・
岡村直美 勁草書房 2200円
- 0697 「最新男性学」 ジョイス・ブラザーズ・
池上千寿子訳 鎌倉書房 980円
- 0698 「男と女の性差—サルと人間の比較」
G. ミッチェル 紀伊国屋書店 2400円
- 0699 「反戦平和と女性解放—婦人運動の発展を
めざして」 小川町企画出版部 1300円
- 0670 「あざやかな女たち」 佐田智子
すずさわ書房 1200円
- 0084 「性の発達心理学」 福富護 福村出版 1500円
- 0085 「女性が自由を選ぶとき—フランスの妊娠
中絶自由化の記録」 ジゼール・アリミ
JCA出版 1200円

- 0086 「女の性と中絶—優性保護法の背景」
社会評論社編集部編 社会評論社 1500円
- 0087 「悲しみを裁けますか—中絶禁止への反問」
日本家族計画連盟編 人間の科学社 980円
- 7326 「日本女性史研究文献目録」
女性史総合研究会編 東京大学出版会 5500円
- 3346 「法女性学のすすめ」 金城清子 有斐閣 1300円
- 1155 「この百年の女たち—ジャーナリズム女性史」
岡崎男 新潮社 780円
- 4682 「高齢化社会と女性—高齢化社会シリーズ」
島田とみ子・樋口恵子編 中央法規 3000円
- 3083 「働く権利と女性解放—労基法改悪とたた
かいたかい」 小川町企画出版部 1500円
- 8000 「小説 女の水脈」 草川八重子 毎日新聞社
1300円
- 8001 「いろまち燃えた—福原遊廓戦災ノート」
君本昌久 三省堂 1200円

「日本婚姻史」 高群逸枝 至文堂 1963年 1200円
昭和38年に著わされた高群逸枝最後の著作。1953年に「招婿婚の研究」を著す。序説日本婚姻史の体系 第一章 原始時代 族内婚 族外婚 第二章 大和時代妻問婚 第三章 飛鳥奈良時代 前婿取婚他(目次より) [1676]

「日本人の結婚観」 神島二郎 講談社 1977年 320円
日本人は結婚というものをどう扱ってきたのであろうか。具体的な事例を示しながら、日本人の結婚観の変遷を明らかにし、同時に明治以来の日本の体制が独身者本位であったことを鋭く指摘している。 [1566]

「日本の夫婦—カウンセリング40年」 岩村信二
日本Y M C A 同盟出版部 1982年 1400円
カウンセリング40年の体験から具体例をあげ、日本の風土にあった家族関係を求めて語る痛快な夫婦論。 [1545]

「女房閨白—亭主がぎょっとする話」 柏木まき子
日本書籍 1979年 880円
夫に尽くして25年。安住の地でふっともらした主婦のため息。密かな願いを少しだけつぶやいてみる…。元婦人記者の著者がつづる、ちょっと怖い主婦談義。 [1588]

「人間って不思議 一つの視角」 半田たつ子
ウイ書房 1983年 1500円
新しい家庭科—We を創刊した著者の著作。We のいでたち 女の問題をめぐる いま、親であることなど。 [1659]

「人間のなかの家庭」 丸岡秀子 国士社 1971年
650円
幼児期から思春期までの充実した家庭教育こそ、ひとりだちへの重大なポイントとなる。家庭とは何かを問いかける。 [1698]

【は】

「破局」 斎藤茂男 晩聲社 1983年 1300円
“妻たちの思秋期”の姉妹篇。離婚届の用紙までセットされており、話題になっている本。夫婦の破局への道をレポートする。われわれに人間とは何かを考えさせてくれるヒントがある。 [1689]

「反結婚論」 岡田秀子 亜紀書房 1972年 1200円
マイ・ホームの幻想と現実 女の教育 反結婚論—女を眼らず子守歌 小説の中の女たち(目次より) [1514]

【ふ】

「ファミリーズ—欧米の家庭・日本の家庭」 杉田弘子
TBSブリタニカ 1981年 1100円
著者が実際に生活した独、伊、米、日の家族・家庭を比較し、考察する。 [1701]

「夫婦の本」 斎藤茂太 情報センター出版局 1981年
830円
二人の関係を洗い直す、見回せばやはり二人、きっと明日も二人だろう 他。 [1573]

【へ】

「別居結婚を实行してみたら…」 山谷えり子
主婦と生活社 1980年 780円
36回目のお見合いでついにみつけた理想のカレは熊本住いの新聞記者。別居結婚を選んだ二人の一風変わった新婚生活とは?人気レポーターが仕事と家庭を両立させる生き方を実感をこめて描く。 [1637]

【ほ】

「崩壊結婚」 帯正子 遠藤教司 三一書房 1981年
1500円
なぜ家を出る夫や妻が激増しているのか? TBS TV ワイドショー “奥さま 8時半です” 蒸発追跡コーナーに現われた人生模様。一見ありふれた平和な家庭の中にもしのびよる崩壊の芽がある。 [1572]

【み】

「未婚の母—その心理学的考察」 C. B. ピンセント
家政教育社 1976年 3200円
本書はカリフォルニア州に在住する1000人以上の未婚の母親たちを対象として研究・調査されたものである。不倫の性行動に対する態度 私生児の調査とその社会経済的要因。 [1567]

【よ】

「嫁姑円満学」 吉沢 勲 ミネルヴァ書房 1979年
980円
わかり易く明日からでも役立つような実用書である。問題別にステップ方式で段階を追って楽しく読めるように編集されている。 [1508]

「嫁姑けんかのすすめ」 田中澄江 家の光協会
1980年 1000円
嫁と姑—この永遠のライバルが手を握り合うには? 歯に衣着せず語る体験的嫁姑平和共存論。 [1500]

「嫁と姑」 住井すえ・丸岡秀子他著
農山漁村文化協会 1980年 900円
嫁・姑の問題に悩む方からの18篇の手記を載せ、著者数名の解決へのコメントがつけられている。 [1506]

「四十歳からの家族関係学」 藤竹曉 講談社 1982年
1200円
折り返し点をすぎたからの人生に、父として、母として、また会社人としてどう対処するべきか。息子たちの世代の価値観と対比しつつ成熟にむかう生きがいを追求する。 [1544]

【り】

「離婚—ニコニコ離婚講座からの報告」 円より子
大陸書房 1981年 980円
ニコニコ離婚講座での事例を紹介しながら、家族、社会はどうあるべきかを考える。離婚ケース・バイ・ケース離婚のため Q&A 資料篇—これだけは知っておきたいこと等。 [1642]

「離婚のしかた教えます」 和田好子 毎日新聞社
1980年 980円
あなたの結婚どこが危ない 離婚相談の窓口を訪ねる 離婚の焦点、子供とお金(目次より) [1610]

「離婚・ぼくんちの場合 シナリオ+ドキュメント」
小山内美江子 利重剛 フロポポート 1983年
980円
TVの二時間ドラマのために作られたシナリオ。女性の自立とは何かをテレビドラマの中で問いかけている。自己に忠実に積極的に生きていく女性の姿をドキュメントとして収録。 [1691]

【れ】

「歴史のなかの家族法」 熊谷開作 酒井書店 1960年
380円
現代家族法の諸制度が日本の歴史のなかでどのように機能していたかを述べる。 [3315]

【わ】

「わたしの結婚心理学—波多野勤子著作集5巻」
波多野勤子 小学館 1982年 1500円
結婚から四人の子育て、お姑さんのことなど、妻・母・女としての自伝風物語 [1620]

【雑誌】

ジュリスト No.6 「現代の家族」 有斐閣
1977年 1400円 [1596]
人生読本「結婚」 河出書房新社 1980年
780円 [1564]
女・エロス6「主婦的状况をさぐる」
社会評論社 1976年 850円 [1661]
女・エロス13「家族解体にむけて」 社会評論社
1979年 850円 [1662]
女・エロス14「家族考—自存のつながりへ」
社会評論社 980円 [1683]
季刊 いま人間として 第4巻「特集 男と女のつくる家」
径書房 (1983.3) 1300円 [1703]

現在ウイメンズ ブックストアで扱っているミニコミ

(第6号発行後に入荷したもの)

- 5201 「あい11・12月号——中曽根新総理にいいたいこと他」 (1982.12) あさ企画 600円
- 5202 「あい1月号——第37回国連総会をめぐって他」 (1983.1) あさ企画 600円
- 5203 「田中正造とその時代 VOL3——特集女性史—と足尾鉍毒問題」 (1982.10) 青山館 950円
- 5204 「京のおんな創刊号」 (1971.12) 京のおんな大学事務局 100円
- 5205 「京のおんな 第3号——特集 京の伝統美を探る」 (1973.12) 200円
- 5206 「京のおんな 第4号——特集 これからの女性の生きかた」 (1974.11) 250円
- 5207 「京のおんな 第5号——特集 海をこえて」 (1975.11) 300円
- 5208 「京のおんな 第6号——特集 結婚をかえりみる」 (1976.11) 300円
- 5209 「京のおんな第7号——特集 まどいの年に」 (1977.11) 300円
- 5210 「京のおんな第9号——援助の人間関係、同居論別居論他」 (1979.12) 300円
- 5211 「本と遊びとなかまたち——京都の家庭文庫・地域文庫10年の歩みの報告と資料」 (1983.2) 京都家庭文庫連絡会 300円
- 5212 「あごら27号—いま平和を支える」 (1982.12) BOC 出版 1500円
- 5213 「We——新しい家庭科 4月号——特集 教師はいまこそ声を」 (1983.3) ウイ書房 500円
- 5214 「We——新しい家庭科 5月号——特集 産む産まぬ」 (1983.4) ウイ書房 500円
- 5215 「We——新しい家庭科 6月号——特集 働くことをめぐって」 (1983.5) ウイ書房 500円
- 5216 「婦人通信 281号——特集 世代交替と後継者もんだい 世界コミュニケーション年をめぐって」 (1983.4) 250円
- 5217 「婦人通信 282号——特集 職場における民主主義コミュニケーション——アジアのことば」 (1983.5) 250円
- 5218 「婦人通信 283号——特集 不妊のすべて、あまマイホーム作戦」 (1983.6) 250円
- 5219 「月刊ワイズ5月号——特集 夫婦別姓を提案します」 (1983.5) 究出版 300円
- 5220 「月刊ワイズ6月号——特集 いま、あえてシングル 特別企画 離婚・子供たちは何を視る」 (1983.6) 究出版 300円
- 5221 「女から女たちへ 42号」 (1983.春) 200円
- 5222 「機関紙と宣伝 No. 598——特集 女たちの新聞」 日本機関紙協会 450円
- 5223 「女・女・女——おんながおんなと組むとき——大阪中之島かしましカーニバル'81 レポート」 ぐるーぷおおう (1982.11) 750円
- 5224 「間に間に——私は指紋捺捺を拒否します。」 梁容子さんと共に指紋捺捺制度撤廃をめざす女たちの会 グループ間に間に (1983.3) 400円
- 5225 「夾やかに堂々と自己主張を/ 明日をひらく教室 第三, 四回 Vol. 2.」 (1980.9) おんな解放連絡会京都編 300円
- 5226 「個の自立をめざして——ひとり歩きの会 報告集 No. 1」ひとり歩きの会 (大阪) (1981.11) 500円
- 5227 「明日を創る——'77. 夏。京都。吉武輝子と共に参議員選挙を戦って」吉武輝子をきっかけに政治を考える女たちの会 (1977.12) 400円 (参院戦を考える資料に御一読をおすすめします)
- 5228 「主婦のおしゃべり 決算——歴史を読む会の十年史」 歴史を読む会編 (1983.5) 1200円 歴史を読む会 (姫路市)の10年間に勉強した女性史の全記録、座談会、文集などを収めている。

連載

ミニコミの女たち

第5回

<地域一家族>の

岩崎美穂

自己紹介

岩崎美穂1949年生まれ。婦人民主クラブ会員。東京都職員。子ども3人。早く子どもたちだけで留守番ができるようにならないかなあ。



'77年6月に第1号を出して以来、種々な曲折を経て現在第18号を出したところです。

当時、初めての子どもを出産した私は、身辺自立できない赤ん坊を育てるという、一面では苦勞の多い“闇”を引き受けて、なお自分も個として生きるといった狭間から見えるものを追求したい、という気持でミニコミ発刊に到りました。もちろん、男とも良い関係をつくりたいと望んでいました。性別役割分業を押しつけてくるこの性差別社会の中で、女の労働権を確立し、子どもや“障害”者、老人たちと共に生きる世の中をつくりたいと願ってもしました。

しかし、子どもが増え、労働・家事・育児の負担が過重になるにつれ、“男も子育てを”と主張していた男がことごとく行動で言葉を裏切っていくのを目の当たりにし、更には、それでも“自分は精一杯やった”と言える男の感性に怒りを覚え、離婚しました。'81年のことです。理念や理想を語る前に、語っている主体の「個」の確立ができていないと、何と不毛で消耗なことだろう——と痛く思い知らされました。

そんなわけで、第15号からは、私ひとりの編集で再再発しました。それまで、子育てとか、対人関係とか、家族を強調するあまり、個人や個我や自立が軽視されてきたという苦い反省の上に、あくまでも「私」から発想し、考えていく紙面づくりをしたいと思っています。私が当初から願っている“共に生きる世の中”も、それぞれの主体が一人立ち（与えられた限界内での）への努力をして初めてその後可能になるのではないかと思います。

タイトルに即して考えてみますと、「家族」って何だ

ろう。女と男が何故結びつくだらう、子どもを持つことと持たないことなど、「家族」については模索中——あくまでも、「私」=「個我」から「家族」を批判的に考えていきたいと思っています。「地域」は、生活圏とか草の根とかいうような意味で、生活に根ざした、根っこのある運動をしたいということです。

離婚時、5才・2才・8カ月だった子どもたちは、やっと6才・4才・2才になりました。でも、私ひとりで働き、育てる生活は本当に忙しく、身体の休まる時がありません。そんなわけで、今は季刊が不定期刊になっています。ミニコミを出して楽しいことのひとつは、各地の闘う人々とネットワークができ、交流ができることです。生きる糧をもらっている様なものです。ありがとう。

女解放、性差別撤廃、性の所有関係をなくすなど闘う課題はたくさんあり、私も一人ひとりがその人らしく生きられる世の中の実現のために歩んで行きたい、と思っています。

それにしても、いい女は増えただけで、いい男はいないなあ、という昨今、女から申し立てる離婚は増々増えることでしょう。

(6号 12P (5186) 参照下さい)

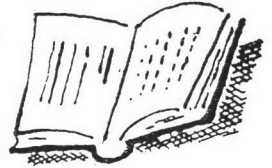
(小金井市東町4の32-21-102)

◇品切・絶版のお知らせ◇

- | | | |
|--------------------|-------|-------|
| 1542「核家族」 | ミネルヴァ | 1000円 |
| 1587「結婚が変わる」 | 大和書房 | 780円 |
| 1595「結婚の易しさ離婚の難しさ」 | 都出版 | 680円 |

“丸岡秀子コレクションキャンペーン中”

≫いま、感動の輪は大きく広がる……≪



- 「ひとすじの道 文芸版 全3巻」 偕成社 各950円 愛とは生とは…感銘深い自伝小説。
 「ひとすじの道 ジュニア版 全3巻」 偕成社 各950円 少年少女向きに書かれた同著。
 「知られざる手紙」 偕成社 950円 ひとすじの道に寄せられた手紙へのお礼の随筆集。
 「婦人思想形成史ノート 上巻」 ドメス出版 1,600円 明治から敗戦までの婦人思想の形成。
 「婦人思想形成史ノート 下巻」 ドメス出版 1,800円 戦後から国際婦人年までの意識変容。
 「日本農村婦人問題」 ドメス出版 1,500円 農村婦人の伝統的環境と地位を明らかにした古典。
 「田村俊子とわたし」 ドメス出版 1,400円 華かな女性作家田村俊子とのユニークな出会い。
 「評論集1いのちへの責任」 未来社1,800円いのちの根源に関わる子供への責任とは。63篇収録
 「評論集2生ま身の論理」 未来社1,800円差別への憤りを軸に生きる基本姿勢を示す。76篇収録
 「評論集3埋葬を許さず」 未来社1,800円“埋葬を許さぬ”人達の追悼を中心に編まれた。76篇
 「評論集4 独りを怖れず」 未来社 1,800円 “女にはよいおかずを” 他56篇を収録。
 「評論集5 魂をもって魂に話しかけよ」 未来社 2,500円 心にしみる言葉で語りかける95篇。
 「めぐり合い百集一信濃折り折りの記」 未来社 1,500円 人・自然・ものとのふれあいを語る。
 「母親入門」 国土社 650円 母親としてどう生きるか模索しつづける体験的母親論。
 「人間のなかの家庭」 国土社 650円 今号 p.9 №1698 をご参照下さい。
 「女性が変るとき」 国土社 650円 とともに考え追求しあう中で変ってゆく女性たちの記録。
 「ある戦後精神」 一ツ橋書房 1,700円 戦後日本の変革の原点を提示する不朽の名著。
 「心の日めぐり」 大和書房 1,200円 放送“朝の随想”で語られ感銘を与えたエッセイ集。
 「現代の家庭と教育」 青木書店 1,000円 教育の荒廃をたて直す道を教師と家庭によびかける。
 「ふる里ふたたび」 家の光協会 740円 心のふる里を再考し、農山村の若人へ呼びかける。
 「親のための教育学1——家庭ってなに」「同2——乳幼児期の子をもつ親へ」「同3——小学生の子をもつ親へ」「同4——中高校生の子をもつ親へ」ダイヤモンド社 各1,200円 家庭教育とは？親と子の関係はどうあるべきかなど具体的な親の悩みにこたえる。



おしゃれた
Tシャツができました!

振替用紙でお申込み下さい。
必ず色をご指定下さい。

定価：1600円 送料300円

色：白、ピンク、サックス、若草色、
薄黄、ミックスグレーの6色
フリーサイズ 極上質綿100%

編集室から

- ◎今回は、急に出版が増えた結婚・家庭・家族問題の目録の充実をはかりました。ご意見・ご教示をお待ちしています。
- ◎今年度会費未納の方はお早くお送り下さい。なお既に会費をお払い下さいました方には、'83年度会員証を同封いたしました。「第1回文化講演会」にはこの会員証をご提示いただきましたら、会員割引400円にいたします。当日会員証をお忘れなく!
- ◎別紙ご案内通りの講演会を催します。当日は祇園祭の宵山、ご遠方のお方もどうぞ見物かたがたお誘い合せご参加下さい。また会場にて丸岡先生の既刊・新刊本を多数即売いたします。どうぞご利用下さい。
- ◎「あなたの情報・私の情報」「書評」は紙面の都合で次号にまわします。
- ◎いつものように、「あなたの情報・私の情報」の原稿募集しています。400字以内締切は8月5日です。

(中西豊子・木下明美記)